

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101341		
法人名	株式会社ユニマツ リタイヤメント・コミュニティ		
事業所名	岡崎ケアセンターそよ風 2階		
所在地	愛知県岡崎市日名南町5-25		
自己評価作成日	平成29年8月28日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101341-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても、落ち着いた雰囲気の中で、自分らしさを保ちながら、自由に喜びのある生活を送りたい。そして、入居者様同士、共に支え合い、それぞれの個性・能力を発揮しながら暮らしていきたい。グループホームそよ風は、そんな願いをかなえるための“住まい”です。日帰りバス旅行を年2回、ご家族様も参加されて行っています。皆様で楽しめるような場所を決めて、計画を立てて、観光バスで出掛けています。入居者様、ご家族様が毎回楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは開設以来、家族にも協力を呼びかけながら関係づくりに取り組んでおり、毎年、家族の参加が得られているバス旅行が行われている。この取り組みは継続して行われており、複数の家族が参加しながら、利用者、家族との交流の機会がつけられている。行事についても、建物1階にデイサービスが併設されている利点を活かしながら、定期的に多くの家族が参加した行事の取り組みが行われている。利用者の日常生活については、ホーム内のリビングがゆったりとした空間が確保されていることで、利用者一人ひとりが好みの場所で過ごすことが可能であり、日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、職員配置についても職員の退職や異動等が少ないこともあり、継続した利用者、家族との関係づくりが行われており、信頼関係の構築につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をつくっており、職員全員で共有している。職員、入居者様、ご家族様、地域の方々と協力し支え合って暮らしている	ホーム独自の理念をつくっており、日常の支援を通じて職員間での共有が図られている。多くの職員の勤続年数が長いこともあり、職員間で意識しながら、理念の内容に合わせた支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の店への買い物や外出をしている。行事への参加をして地域の方々と交流している	地域の行事の際には、ホームも案内をもらい、利用者と参加する機会がつけられている。また、建物1階のデイサービスのフロアを地域の方に活用してもらう等、地域貢献につながる取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年地域の人々に向けて夏祭りを行い、交流しながら理解や支援の方法を活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議に参加されたご家族様、地域の方、包括支援センター、介護相談員の方の意見を聞き、日々のサービスの向上に活かしている	会議の際には、複数の家族の参加が得られており、家族との交流の機会にもつながっている。また、開催は土曜日であるが、地域包括支援センター職員の参加が得られており、意見交換や運営上の助言等の機会にもつながっている。	会議には複数の家族の方が参加しているが、地域の方の参加が得られていない状況が続いている。ホームからの働きかけを継続しながら、地域の方の理解と協力が得られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター、介護相談員、グループホーム小部会の方との協力関係を築きサービスの向上に積極的に取り組んでいる	市内の介護事業所との連絡会の際には、ホームからも管理者が出席しており、情報交換等の取り組みが行われている。また、地域包括支援センター職員の他にも、市の介護相談員の訪問を通じた情報交換の機会もつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、全職員が拘束しないケアに取り組んでいる	ホームのフロアには施錠を行っていないことで、ゆったりとした空間と合わせて、利用者の見守りを重視した取り組みが行われている。また、研修会の機会がつけられており、職員の振り返りの取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年一回は高齢者虐待防止関連法について研修を行い、全職員で意識を持って防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じた援助にて自立を支援している。成年後見制度が必要であると思われる場合には支援出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居退去時には十分な説明を行っている。改定時、新たに場を設け説明している。面会、運営推進会議などで、話し、ご家族様が理解、納得されている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している。介護相談員の来訪、運営推進会議、面会時などで、意見、要望をお聞きする機会を設けている	家族との行事を通じた交流会の機会がつけられている。家族からの要望等については、ホームの管理者の他にも事業所のセンター長も対応可能な体制がつけられている。また、毎月の便りの発行が行われており、利用者の様子を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	GH会議、全体会議で提案、意見を出し合っている。日常的にも提案、意見を聞き、取り入れている	毎月の会議が行われており、管理者が把握した職員からの意見等はセンター長も把握する体制がつけられており、ホームの運営への反映につなげている。また、センター長による職員面談の機会がつけられており、一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	やりがいはあるが、人員の問題の為、業務が多くなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人一人に合った研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	小部会に参加し、他のグループホームとのネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族様から話しを聞き、情報をもろう。入居直後にはご本人様からも、困っていること、不安なこと、要望等の話を聞いたり、表情からくみ取るなどして関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族様から話をじっくりお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時にご本人様とご家族様にじっくり話す機会を設け、まず必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の気持ちを最大限理解し、その時々にお互いが出来ることを行い、支え合って暮らしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様に意見を聞き、ご本人様の気持ちを大切にしつつ、ご家族様にと共に支援できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時に記念撮影をしたり、手紙の交換をしたり、電話で話したりなど自由に行えるように支援している	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問して利用者と面会したり、手紙等で近況を伝える等、馴染みの関係の継続が行われている。また、家族との関係も継続できるようにホームでも働きかけが行われており、一緒に外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様が孤立することのないように、職員が間を取り持ち支え合えるように支援している。共通の話題を提供し、会話が弾むようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じご家族様からの相談、要望に応えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意志を尊重し、暮らして頂けるよう努めている	一人の利用者に複数の職員が担当する体制がつくられており、利用者に関する情報を職員間で共有しながら、一人ひとりの意向等の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスの際には、利用者全員の現状確認等が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らし方の情報をご家族様、ご本人様から収集し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援経過記録、介護記録を記入し、職員間で共有している。又朝、夕の申し送りにて把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様、必要な関係者と話し合い、介護計画に取り入れている	介護計画の見直しを6か月で実施しており、家族との面会の機会がつくられている。モニタリングについては、職員間での検討を行いながら、3か月での実施が行われている。また、法人独自の様式を活用しながら、職員間での支援内容の共有も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌、介護記録、介護支援経過記録を記入し、現状を把握して介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズの変化に対応して柔軟な支援やサービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、ボランティア来訪での文化的催しに参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回協力内科医の往診を受けている 随時に協力歯科医の往診を受けている	協力医とは定期的な訪問診療の機会がある他にも、状況に合わせた連絡等の柔軟な支援体制がつけられている。また、併設のデイサービスにと合わせて、複数の看護職員が勤務していることもあり、医療面での支援体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師に情報や気づきを相談し、指示を受け対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護サマリーを提供し、退院の際には診療情報提供書で情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	協力医、管理者、職員、家族間で十分話し合い、その結果を職員で共有し、職員全員で支援している	重度の方も生活できるように、ホームでも支援可能な取り組みが行われているが、現状は、段階にあわせて次の生活場所に移行している。重度化に合わせた必要な研修等については、ホームでも実施しており、資質向上に向けた取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回地域の消防署と協力し、防災訓練を行っている	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や併設のデイサービス職員との合同の訓練も実施している。また、水や食料等の備蓄品の確保の他にも、ホームで防災に関する担当職員を決めていることで、災害時に対応する体制がつけられている。	地域の方がデイサービスのスペースを利用する等、交流の機会がつけられている。ホームからの働きかけを継続しながら、地域の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目線を合わせ、相手の表情を見ながら人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いをしようとしている	理念の中に職員の「心がけ」が書いてあることで、職員が日常の支援の中で意識するような働きかけが行われている。また、接遇面に関しては、デイサービスの職員との研修の機会がつけられており、職員の振り返りの機会がつけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様のお話をよく聞き、自分の気持ちを表に出せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に、その日一日をどう過ごしていきたいかの希望に添って、暮らしを支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	二か月に一度移動理容美容室を利用している。本人の好みや季節に合った洋服を選ぶように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に献立を考えたり、調理、盛り付けなどを行っている。本人の意思を尊重し、行えることをお願いしている	メニューをユニット毎に考えており、利用者の好みや嗜好に配慮した食事作りが行われている。買い物や調理、片づけ等、利用者もできることに参加した取り組みが行われている。また、季節等に合わせた行事食や外食の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立にし、水分量を記録し、一人一人の体調に合わせて提供している。生活習慣病の方には、その方に応じた食事量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、一人一人の口腔状態を把握している。夜間は義歯の洗浄、除菌を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンに合わせて排泄誘導を行い、自立に向けた支援を行っている	利用者全員の排泄記録を残しており、毎日の申し送りを通じて職員間で情報を共有しながら、トイレへの声掛け等が行われている。現状、複数の利用者がパンツで過ごしており、職員が様子を見ながらトイレへの案内等の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食材の工夫、水分補給、運動、腹部マッサージを個々の必要性に応じて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴時間帯は決めているが、一人一人が楽しんで入浴出来るよう支援している	週4回の午後の時間に入浴しているが、利用者により毎日入浴している方もいる。浴室には浴槽が2か所あり、身体状態に合わせた対応が可能である。また、柚子湯や菖蒲湯の他にもバラ湯の取り組みも行われており、利用者の楽しみが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、昼寝を取り入れたり、就寝前にはゆったりと過ごし、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳と処方箋を確認し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	楽しみ、喜びある日々を過ごせるよう一人一人に合わせて役割や楽しみごとの支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	買い物や散歩など日常的な外出を支援している。四季を通じて外出レクを行い、年に二回、日帰りバス旅行を行っている	ホーム前にある公園が整備されたこともあり、利用者が日常的に外出する機会にもつながっている。季節等に合わせた外出行事がつけられている他にも、年2回の家族にも参加を呼びかけたバス旅行の取り組みが行われており、家族の参加も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の力に合わせてお金を持ち、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ電話をしたり、手紙のやり取りが行えるよう支援している。皆様が年賀状を出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間に季節の花や飾り付けをしている。居心地良く過ごせるよう、なじみの物を置いている	リビングや通路は広く、ゆったりしている他、建物の2階と3階にあることで、利用者が日中を明るい雰囲気の中で過ごすことができる。また、通路の壁には、行事での写真が掲示されており、ホームでの様子を伝える取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファ席、テーブル席があり、思い思いに過ごして頂けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族様から話をじっくりお聞きしている。ご本人様が使い慣れた愛用の物を置くことで居心地よく過ごせるようにしている	居室についても広い空間が確保されている他にも、収納スペースが確保されてあることで、居室内を広く活用することができる。また、居室にテーブルの高さの台が設置されてあることで、そこに趣味の物や化粧品を置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入口にご本人様の写真を飾り分かりやすくしている。夜間安全にトイレに行けるよう日中も居室近くのトイレに行って頂くようにしている		